

2024 年 7 月 15 日

「海の日」を迎えて

一般社団法人 日本船主協会
会 長 明 珍 幸一

「海の日」を迎えるにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

「海の日」は、「海の恩恵に感謝すると共に、海洋国家日本の繁栄を願う日」として制定された国民の祝日です。四面環海のわが国において、海は、食料供給、資源確保、観光、環境保全など多岐にわたり重要な役割を果たしています。その海を舞台にわれわれ海運は、安全で安定的な海上輸送サービスの提供を通じて国民生活や経済活動を支えるべく、日本の貿易量の 99%以上を輸送しています。

この「海の日」に国民の皆様が、海がもたらす多くの恩恵に感謝するとともに、海運をはじめとする海事産業に思いを巡らせてくださることを願っています。

さて、われわれ海運は、安全で安定的な海上輸送サービスの提供という責務を果たし続ける為、様々な課題に取り組んでいますが、その責務を果たす上で、いつの時代も重要なのは、世界の海における航行の自由と安全運航の確保です。

昨年 10 月のイスラエル・ハマスの軍事衝突を契機として、紅海やアデン湾などの海域で、商船が標的となる攻撃事案が相次いでいます。昨年 11 月には当協会会員船社の運航船舶が拿捕される事態が発生しており、乗組員と本船の一日も早い解放を強く望みます。そして、いま現在も同海域を航行する商船への攻撃は継続しており、乗組員が犠牲となる事案も複数発生しています。国際サプライチェーンを担う業界の一員として、こうした非道な行為を断固非難すると共に、早期の事態収束を強く望みます。

また、ソマリア沖・アデン湾などの諸海域では、海賊被害のリスクが再び顕在化しています。ソマリア沖などでの海賊対処行動では、これまでも自衛隊や海上保安庁をはじめとする政府関係の皆様による力強いご支援を頂いていますが、引き続き、これら航行の自由と安全運航の確保に対するご理解とご協力をお願い申し上げます。

更に、ロシアによるウクライナ侵攻も長期化するなど、様々な地政学的リスクの高まりにより、世界のサプライチェーン、物流は多大な影響を受けています。斯かる情勢下においても、安全で安定的な海上輸送を継続して、人々の平和で豊かな生活や産業を支えることがわれわれ海運の担う最大の責務ですので、今後も関係者と連携して、その責務を果たし続けるべく尽力してまいります。

地球環境への対応も大きな課題です。

昨年、IMO（国際海事機関）において、国際海運における GHG 削減戦略が大幅に強化され、「2050 年頃までの GHG 排出ゼロ」をはじめとする削減目標が打ち出されました。現在この実現に向けて、燃料の GHG 強度規制と課金・還付制度を中心に中期対策に関する議論が加速化しているところです。当協会会員各社において、代替燃料船やゼロエミッション船をはじめとする環境対応船の研究・開発、導入が進められていますが、当協会は社会の低・脱炭素ニーズに応え、わが国海運・海事産業の強みを生かすべく、引き続き各国政府や国際海事団体関係者と密接に連携して、海運分野の温暖化対策が適時適切に図られるよう取り組んでまいります。

一方、欧州においては、本年から EU-ETS（欧州域内排出量取引制度）が海運セクターにも適用され、来年からは GHG 強度を規制する FuelEU Maritime が適用開始となる予定です。これら対策について、地域規制と国際規制が併存することは二重負担にもつながりかねません。国際規制へと一本化されて、業界にとって合理的かつ現実的なものとなるよう、国土交通省をはじめとする関係者と共に尽力してまいります。

この他海運を取り巻く様々な課題がありますが、これらに取り組むにあたっては国民の皆様の海運や海事産業に対するご理解が必要不可欠です。

当協会が従来から実施している海事施設の見学会や各種イベントの開催、小中学生を対象とした出前授業への協力に加えて、今年度はコロナ禍で中断していた商船の船内見学会を再開する他、海運 PR キャンペーン「“開運” じゃなくて、“海運” です。」は、SNS の活用などを通じて展開を強化してまいります。より多くの方に海運の魅力を知っていただき、社会全体における認知度の底上げを図ります。

そして、世の中の至る所で人手不足が叫ばれる中、日本人船員・海技者をはじめとする優秀な海事人材の確保・育成は、業界の競争力にも関わる大変重要な課題です。日本人船員と海技者の確保・育成に関わる広報活動を継続する他、国や海事教育機関、海事諸団体などの関係者が参加する、海事人材の確保に関する各種検討会に参画し、業界意見が反映されるよう働きかけてまいります。こうした関係者との連携を強化して、一人でも多くの方々に海事産業の一員となっただけのような取り組み、将来を担う海事人材の確保に繋げてまいります。

最後に、改めまして海の恩恵に感謝すると共に、海洋国家日本の繁栄および皆様のご健勝とご発展を心より祈念しまして、「海の日」の挨拶とさせていただきます。

以上